



TITLE:

第10回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会抄録 1. 双子の授乳状況の実態と課題

AUTHOR(S):

皆川, 貴子; 服部, 律子

CITATION:

皆川, 貴子 ...[et al]. 第10回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会抄録 1. 双子の授乳状況の実態と課題. 京都大学医療技術短期大学部紀要 2000, 20: 77-77

ISSUE DATE:

2000

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/49726>

RIGHT:

第10回京都大学医療技術短期大学部 健康科学集談会抄録

日時：平成11年12月27日(月)

13:00～15:45

場所：北棟1階第2大講義室(口演15分, 討論10分)

1. 双子の授乳状況の実態と課題

皆川 貴子, 服部 律子
(看護学科)

近年, 体外受精などの不妊治療の普及に伴い, 多胎妊娠は増加している。乳児期の双子の母親にとって育児の中心である授乳の負担は大きい。単胎の授乳状況については多くの調査がされているが, 双子の授乳についての調査は少ない。そこで, 今回, 双子の生後10ヶ月までにおける授乳状況と授乳指導について調査を行った。平成10年11月に, 「ツインスターズ」の双子の母親200名を対象に, アンケート調査をした。回答数は107名(53.5%)であった。

単胎の生後6ヶ月の母乳栄養率は30.7%に対し, 双子では13.4%にすぎなかった。授乳状況は, 授乳期間の全般において, 母乳栄養群は変化せず, また, 月齢とともに人工栄養群は増え, 混合栄養群が減る傾向であった。入院中に双子特有の授乳指導を受けたという人は49名(46.7%), 受けなかったという人は56名(53.3%)であった。母親が妊娠中に母乳希望していた期間は 7.9 ± 4.2 ヶ月であったが, 実際に母乳を継続していた期間は 5.9 ± 4.7 ヶ月と有意に短かった。授乳のタイミングでは, 入院中から2人ともだいたい同じ時間帯に授乳を行う傾向だった。同時授乳を経験していたのは98名中49名(50%)であり, 妊娠中から母乳を希望していた人は同時授乳を有意に高率で経験していた。

授乳期の子供を2人かかえる母親は育児が忙しく時間的余裕がなく, 退院後自ら進んで情報

を得たり育児支援活動に参加することは難しい。われわれ医療従事者が, 双子の母親が比較的時間のある妊娠期から継続した積極的なアプローチを行うことが必要とされる。

同時授乳という技術は難しく, 習得するには時間がかかる。しかし, 同時授乳は「双子の母という実感もあり, 幸せな気持ちになった」という双子ならではのものもあった。私たちには, その母子たちによりそった方法を試行錯誤を重ねながら, 丁寧な同時授乳の指導をしていくこともとめられている。

2. 片側上肢への重錘負荷が体幹傾斜角度・足底圧中心位置に与える影響

万久里知美
(理学療法学科)

近年, 下肢に対する整形外科的手術の進歩とともに, それに対する理学療法の需要も大きくなってきている。しかし, 可動域の改善・筋力増強が良好に得られても, 歩容が十分に改善しない症例もみられる。今回上肢への重錘負荷が, 片脚立位時の体幹・骨盤傾斜角度と足底圧中心位置のそれぞれに与える影響について検討したので報告する。

対象は健康成人10名(平均年齢 22.7 ± 4.6 歳)とした。体幹・骨盤の傾斜角度を測定するために, 二次元動作解析装置を用いた。マーカーを両肩峰とその中点・第7及び12胸椎・両腸骨稜とその中点に置いた。足底圧中心位置の測定には重心動揺解析システムを用いた。測定肢位は